

～ Serving the *Community* and Supporting the *YMCA* since 1976 ～



埼玉ワイズメンズクラブ

Saitama Y's Men's Club

月間テーマ : *Empowering & Inspiring Youth*

2025
5月



2024-25 年度クラブテーマ「市民と繋がろう・市民に知らせよう」

埼玉 YMCA 総主事就任式
5月10日

埼玉 YMCA は今年から小谷前総主事に代わって太田 聡氏が就任。半世紀頑張ってきた埼玉 Y はビジョンと課題を担って今後も進んで行く。私たち会員も手を携えて進んで行こう。今月号は世界 YMCA 同盟のガザ停戦緊急声明文を転載した。エッセイは話題の映画「教皇選挙」と、企画「ワイズにとって男女公正社会とは？」を取り上げている。両者共ジェンダーに関する内容だ。



[写真メモ] 太田聡総主事の就任式が5月10日に所沢YMCAで和やかに挙行。代表理事二人体制の導入でもあり総主事と吉野勝三郎氏が紹介された。小野塚勝俊所沢市長の他、各地Yからは応援激励団やOBOGも。(総主事の膝上は澁谷牧師のお子様。)

今月の聖句

「恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神。たじろぐな、わたしはあなたの神。勢いを与えてあなたを助け わたしの救いの右の手であなたを支える。」

(イザヤ書 41 章 10)

6月 夜談会

日時：6月9日(月) 午後6時～8時

会場：サイゼリア(浦和駅東口)

▽ 気楽に知り合い、笑いながら見識を深めるさばけた市民の出会いと集いの場(覗いてください)

6月「To You (梅雨)」例会

日時：6月16日(月) 10:00～12:00

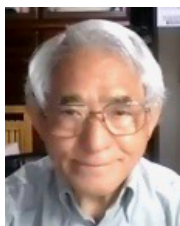
会場：市民活動サポセン(パルコ9階)

プログラム：次年度に向けて(50周年年度)



「映画・教皇選挙」を見る

上松 寛茂



梅雨入り間近の雨の朝、TOHO シネマ池袋で映画「教皇選挙」を見た。フランシスコ・ローマ教皇死去に伴う新教皇選挙(コンクラーベ)で米国出身のプレボスト枢機卿(レオ 14 世)が選ばれたばかり。現教皇は 2 回目の投票ですんなり選ばれたが、通常は世界中からバチカン市国に集まった枢機卿 130 人の 3 分の 2 の得票まで繰り返し実施されるコンクラーベ。「完全なる秘密主義のベールに覆われた疑惑と野心が渦巻く選挙戦の内幕を映画化した極上のミステリー」と宣伝文句にはあった。第 97 回アカデミー賞で 8 部門がノミネートされ、脚色賞を受賞している。なかなかの迫力があつた。



「神の代理人」とされる教皇選挙ながらも権謀術数も辞さない人間的な駆け引きがなされ、映画では保守派代表のイタリア人枢機卿と改革派代表のアメリカ人枢機卿の対立が描かれる。ライバル枢機卿同士の間では過去の粗探し、それをスキャンダルとして告発し、有力候補から蹴落とす場面は世俗社会と同じ。どこかのプロテスタント教団の選挙も似たようなもの。舞台は閉ざされた空間で煌びやかな衣装が目を惹く。シスター(修道女)たちの存在感は薄い。選ばれたのはアフガニスタンに赴任中のメキシコ人枢機卿。長かったコンクラーベも終わり、ホッとすべきところだが、さらに驚くべき結末が待っていた。シスターたちの“立ち位置”など、ジェンダーにもかかわる世界のカトリック界における問題点と苦悩を象徴するような問い掛けもなされている。何やら戸惑いそうだが、女性の聖職者を認めない世界最古の家父長制と批判のあるジェンダー問題にも踏み込んでいる。システナ礼拝堂の屋根から教皇が選出された証しの白い煙の風景は見せず、民衆の喝采の声だけがスクリーンに響く。◆

＊ 世界のカトリック信者の人口は 2023 年で 14 億 600 万人。今もヨーロッパを除いて信者数は増加している。

5 月 27 日の夜、当クラブは一つの計画を実行に移した。銘打ってオンライン懇談会「ワイズにとって男女公正社会とは?」。2 年前から 1、2 ヶ月おきに持ったジェンダー学習会は、ゴールも道筋も見えない濃霧中の船旅だった。でも女性ゲストたちと話し合う中で、多くの知らないことや勘違いに気づかされた。



そこから他のメンとオンラインで話さないか、ということになり、4 月にワイズ・ドットコムで先ず本案を提示し、機会あるごとにアピールした。それと同時に長島美紀氏(マラリア・ノーモア・ジャパン)にファシリテーターと発題を、二つ目の発題を長尾ひろみ氏(せとうちグローバル・アカデミー)に依頼した。翁クラブが ZOOM で社会課題に挑戦する? 不安だったが、最後は腹を括った。

さて当日。北は十勝クラブから南は熊本むさしクラブまで各地から 18 メンが参加。スクリーンの碁盤の目が懐かしい顔で埋まり、いよいよ懇談会がスタート。ゲスト二人の豊かな体験談を聞きながら、各自過去を振り返り、今に思いを馳せ、何を言おうか考える。少しずつ手が上がりストーリーが語られ、意見が述べられる。日本は男社会が依然残っていると言え、イヤ良くなっていると言う。インドのクラブは家族ぐるみでとても活発だとか、日本のワイズは 1974 年にいち早く女性の入会を認めたなど教わった。私は改めて女性も男性も一人ひとり市民意識で社会と対峙せねばならない、と痛感した。

本企画に協力してくれた全てのメンと、特に道案内をしてくださった長尾氏と長島氏に心から感謝したい。私個人は様々な意見から多くを学べた喜びと、スクリーンをとおした交わりの喜びを味わえた。ワイズダムに居続けて本当に良かった。◆



[参加者] 山田公平 森本俊子 為我井輝忠 山下 真田 虎忠邦 御園生好子 進藤重光 島田 茂 青木一芳 中井信一 仙洞田安宏 田上 正

[ゲスト] 長島美紀 長尾ひろみ

[埼玉] 上松寛茂 水無瀬隆造 衣笠輝夫 堀和光二郎 伊藤澄夫 浅羽俊一郎(順不同/クラブ名略)

◆ 世界同盟発：ガザ停戦に向けて声明

* 5月26日付 世界同盟ホームページより

「世界 YMCA はガザで続く危機に深く心を痛めています。そこでは命が失われ、人々の苦しみが耐え難いレベルに達しています。YMCA は、人は誰しも平和と安全のうちに、尊厳をもって生きる権利があるという信念に根ざしたグローバルな運動として、沈黙してはいられません。今まさに YMCA はその人道性が試されており、この事態にどう応じるか、歴史の裁きに委ねられているのです。3月以来、ガザの人々は包囲され、食料、燃料、医薬品を断たれています。男性も女性も、子供たちも飢えに苦しんでいます。この21世紀の飢餓の恐るべき点は、その根源が凡ゆる点で人為的だ、ということにあります。ガザの人々が耐え忍んでいるのは人道的危機だ、という表現では実状を表わせません。彼らは絶滅の危機という恐怖に晒されているのです。

私たちは以下の呼びかけに加わります。

- ・ 即時かつ持続的な停戦
- ・ 全ての民間人、特に子どもや社会的弱者の保護
- ・ 国際人道法の無条件遵守
- ・ 人道支援およびエセンシャル（生活必需な）サービスへのアクセス



さらに、全ての人質と被拘束者が安全かつ人道的に解放されること、全ての人に対して正義・思いやり・尊厳が護られること、そして正義に基づく永続的な和平交渉の実施を求めます。

ガザ YMCA は破壊され、職員は避難を余儀なくされましたが、近隣地域の東エルサレム、レバノン、エジプトでは YMCA が必要不可欠な人道支援と開発援助活動を続けており、世界中の YMCA が彼らと連帯しています。私たちは、全面的な破壊を防ぐために要請があれば、支援をさらに動員する用意があります。私たちは、国際社会に対して要請します。流血を止め、生命を守り、公正な平和を確保するために、今すぐ行動を起こしてください。そして

人道の道を選択してください。」

* 英文記事をグーグル翻訳/加筆しました。(浅羽)

活動・会議メモ

◆ 5月「夜談会」



今月12日の夜談会@サイゼリアは常連に混じって、外国籍の若いゲストが男女1名ずつ参加。いつも明るい夜談会も、この夜は結構眩しかった。男性はスイスはバーゼル市在住のカールさん。3回目の観光旅行中で、日本語もかなり出来る。女性の方はさいたま市在住の中国籍の劉（リュウ）さん。筑波大学大学院でシステム工学を学んでいる。昨年暮れ、15年ぶりに再来日。クラブの例会にも参加してくれた。「箸の持ち方？」を入りに、別々のテーブルで次々と様々な話題が飛び交い、課題を共有する多文化交流の場となった。(浅羽 記)



[出席] ゲスト：カール、劉、常連とメン：宮原、浅香、大輪、浅羽 M、上松、衣笠、高岡、浅羽

◆ 5月「さつき鯉」例会

19日朝10時から、浦和駅前の市民活動サポートセンターで例会を開催。今回も小声で「いざ立て」を歌い、聖句・祈りで開会。今回は少人数だったが、女性ゲスト2名を交えてしっかり話し合いが持たれた。話し合いの中心テーマは27日に予定されていたオンライン懇談会「ワイズにとって男女公正社会とは？」の内容・進め方についての相談。だが自然と話は過去現在の男社会の苦勞話しに向かう。その中で印象的だったのはガールスカウトが今グローバルに推進している「女性が世界を変える」運動の話。少女の時から自立した女性の育成と、同時にいじめへのケアなどを活動に取り入れているそうだ。



[ゲスト] 佐久間、森田 [メン] 高岡、上松、伊藤、浅羽

◆ 関東東部 第2回評議会

5月17日(土) 13:30~17:00 東京 YMCA 東陽町センターにて評議会開催。山本剛史郎部長(川越)が開会。今回東日本区信条の唱和は省略された。各種報告の後、協議案審議では浅羽メン提案の「東日本区信条の意義検証」を協議した。次年度各クラブでしっかり検証し、評議会でさらに話し合うことになった。

次年度方針については鈴木雅博次期部長(東京江東)より部役員の構成変更について、金丸満雄メン(東京ひがし)が地域奉仕と会員増強の主査を兼務し、山崎常久メン(東京江東)が国際・交流とユースの主査を兼務するとの説明がなされた。ほかに部大会は開催しなくてもよくなり、またユースボランティア・リーダーズフォーラム(YVLF)への分担金は今までの一律から、人数割りに変更。各部共通の課題は今後の活動資金の確保だ。これからクラブ単位でも資金作りを研究する必要がある。



二次会は近隣ホテルの居酒屋で。上松・浅羽テーブルでは埼玉県立全高校の共学化について議論が盛り上がった。(浅羽 記)

* 出席：上松・衣笠・浅羽



仲間からの便り



◆ 5月の俳句 堀和光二郎メン(俳号 愚道)

入院行っておいでと野鳩鳴く

入院のためバスを待っていると林の中から野鳩の鳴く声がきこえました。



看護師の指先白し5月かな

手術が終わって何もできない状態で看護師の女性が白い指でいろいろな面倒を診てくれました。

生きている初夏の太陽ありがたや

退院して帰宅してみる太陽が輝いていました。まさにありがたや

◆ 堀和光二郎メンと三浦浦雄二メン(休会中)

浅羽メンが堀和メンと三浦メンと電話で話したところ、それぞれ白内障手術で数日入院していた。今月の堀和メンの俳句にある看護師の白い指とは術後の新鮮な目で見たら、白さが際立って見えたのだと想像される。

◆ 森田直子氏(5月例会に初参加)

画家。10年間「平和美術展」を主宰。さいたま市家庭裁判所の元調停員。数年前に亡くなられた夫で詩人の進氏は以前埼玉 YMCA の副理事長。恵泉女子大を退職後、牧師の道を歩まれた。偶然同じ新座市のマンション住まいだったことで浅羽夫妻と懇意になっていた。現在さいたま市在住。

今後の予定

- ・6月7日(土)：第28回東日本区大会
会場：宇都宮市 ライトキューブ宇都宮
- ・7月19日(土)：関東東部 評議会

統計	出席	会員	ゲスト/ビジター
夜談会 (05/12)	10	4	6
月例会 (05/19)	6	4	2



ワイズメンズクラブ 案内

ワイズメンズクラブ国際協会(Y's Men International)は世界的な青少年教育団体 YMCA を応援する国際的な奉仕クラブです。若者と地域への奉仕と、国内外の交流を進めています。肩書き/性別/政治/宗教/年齢差を問わず皆対等です。奉仕活動をしたいけれど、最初の一步が踏み出せない方、ワイズ活動から試みませんか。埼玉クラブは浦和区を拠点に活動して再来年で50年になります。

まずは月例会を覗いて、雰囲気味わってください。年会費4万円ですが、ゲストとして参加し皆と一緒に活動することもできます。

* 詳細は埼玉クラブ会長 浅羽まで。(090-7426-5553)